

## 道南太平洋海域スケトウダラニュース

平成 28 年度 第 3 号 2017 年 1 月 24 日

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構

函館水産試験場 調査研究部

TEL : 0138-83-2893 FAX : 0138-83-2849

### 平成 28 年度道南太平洋スケトウダラ産卵来遊群分布調査（3 次調査）結果

函館水試調査船「金星丸」により行われたスケトウダラ資源調査の結果をお知らせします。

- ・ 調査期間：2017 年 1 月 17～19 日
- ・ 調査海域：道南太平洋の水深 50～500m の海域（図 1 右上）

- ・ スケトウダラの海域平均反応量は、昨年同期を上回った。
- ・ 魚群反応の強い海域は登別～鷓川沖。
- ・ 反応の比較的強い水深は 400m 付近（海底に張り付いた反応は水深 300～400m）。
- ・ 刺し網漁獲物の体長（尾叉長）は、45cm 前後が主体であった。

1. スケトウダラとみられる魚群は、主に登別沖から鷓川沖にかけて分布していました。その中でも、胆振海域の 182、176 海区付近に強い反応がみられました（図 1・2）。
2. 海域平均の反応量は、前年度を上回りましたが、3 次調査（1 月調査）が開始された 2004 年度（調査は 2005 年 1 月）以降では前年度に次ぐ低い値となっていました（図 3）。
3. 魚群反応は、水深 100～500m の広い範囲で観察されました。特に水深 400m 付近に比較的強い反応がみられましたが、海底に張り付いた反応は水深 300～400m にかけてが中心となっていました（図 2・4）。なお、渡島海域では、250m 付近にも反応がみられました（図 2-1）。
4. 今年度の調査は、時化の影響で調査期間内にトロールによる漁獲調査はできませんでした。また、海洋観測調査も一部でしか実施できませんでした。そのため、漁獲物の組成については、1 月に鹿部港及び登別港に水揚げされた刺し網漁獲物の測定結果を記載しました。これによると、刺し網漁獲物の体長（尾叉長）組成は、鹿部港及び登別港漁獲物とも 45cm 前後が主体となっていました（図 5）。漁獲物の成熟状態は、両漁獲物とも雌では真子及び完熟卵（水子混じり）が半々程度となっており、前年度調査と比べて水子混じりの割合はまだ低い状況でした（図 6）。

今年度のスケトウダラニュースは本号で終了となります。

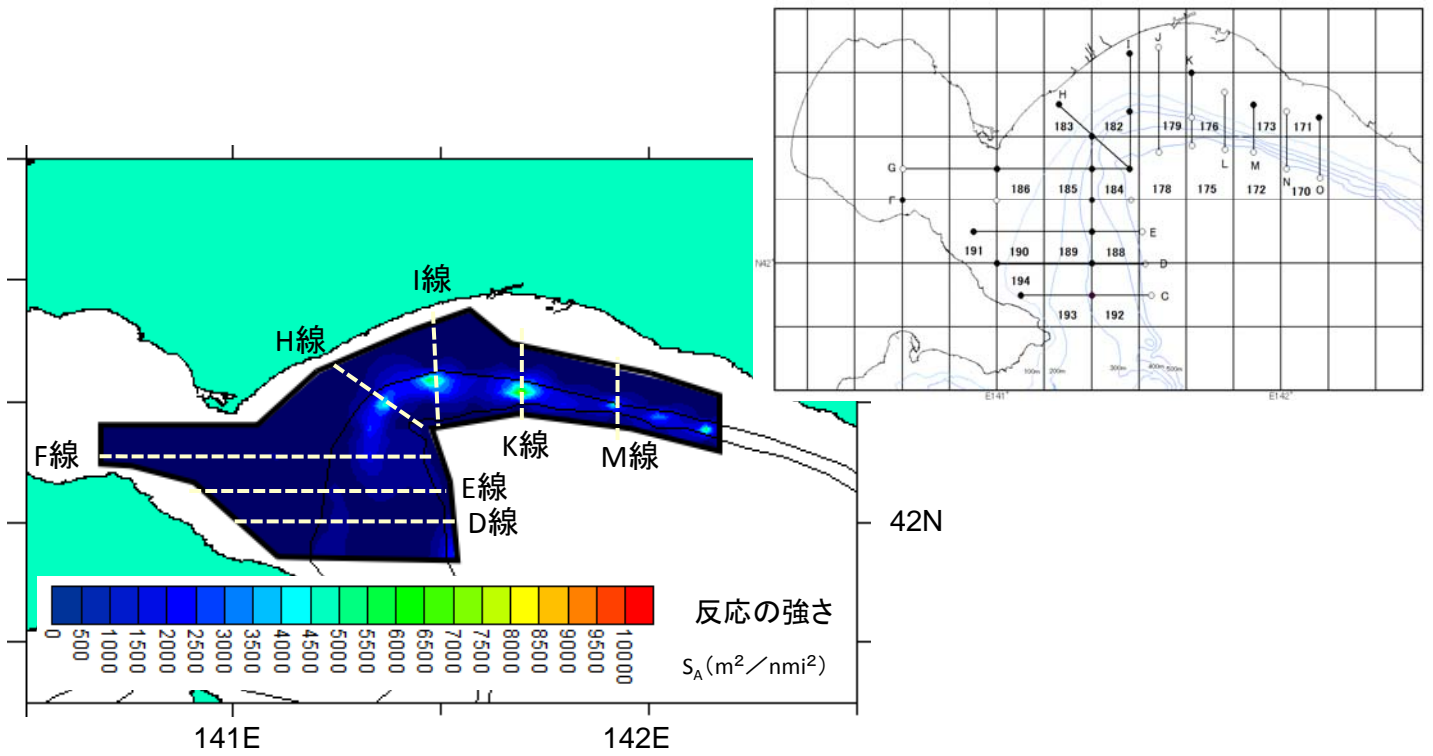


図1 調査海域における魚群の分布(右上図は調査海域図)

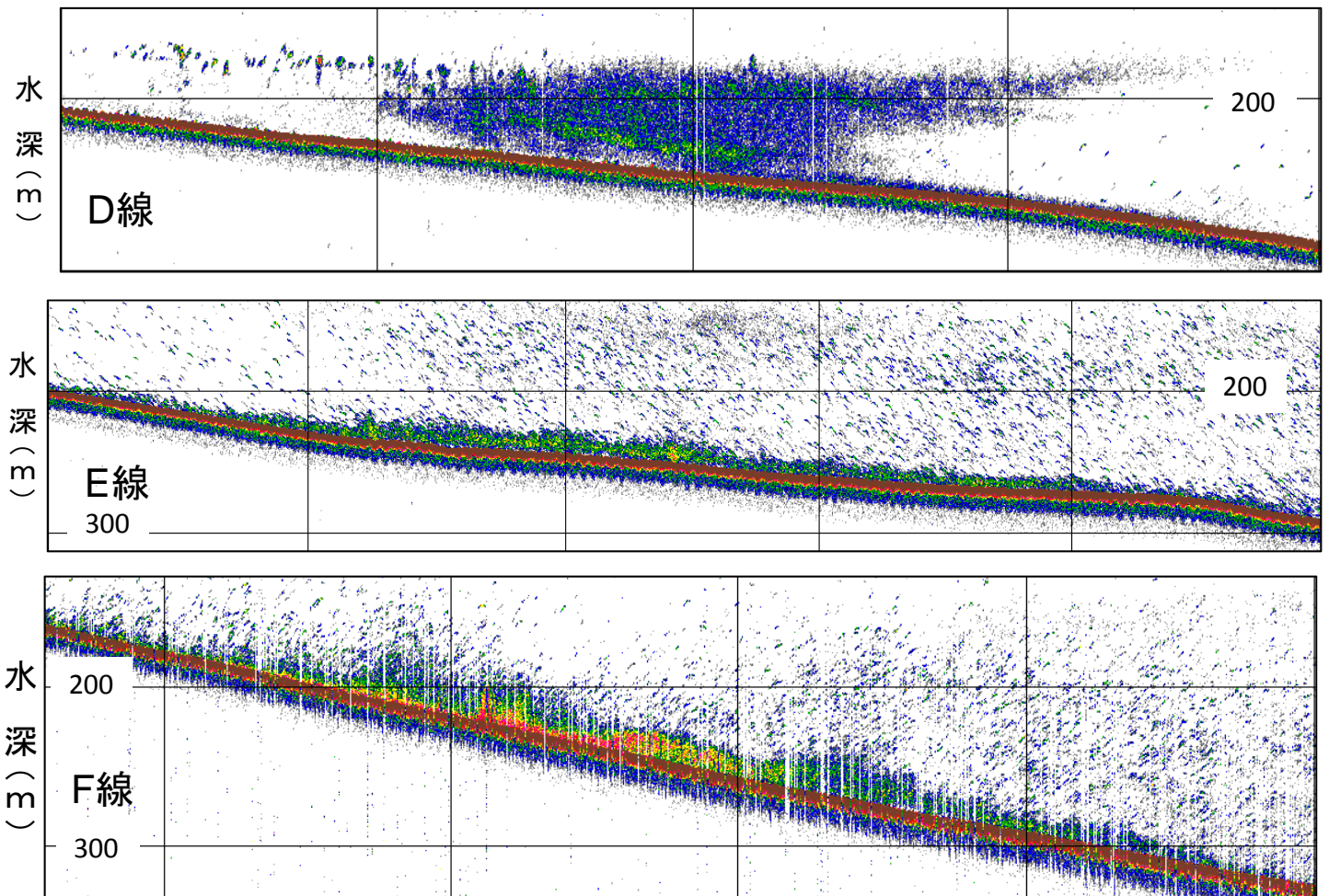


図2-1 魚群の分布状況(計量魚探画像)  
 グラフの水平ラインの間隔は1マイル, 鉛直ラインの間隔は100m



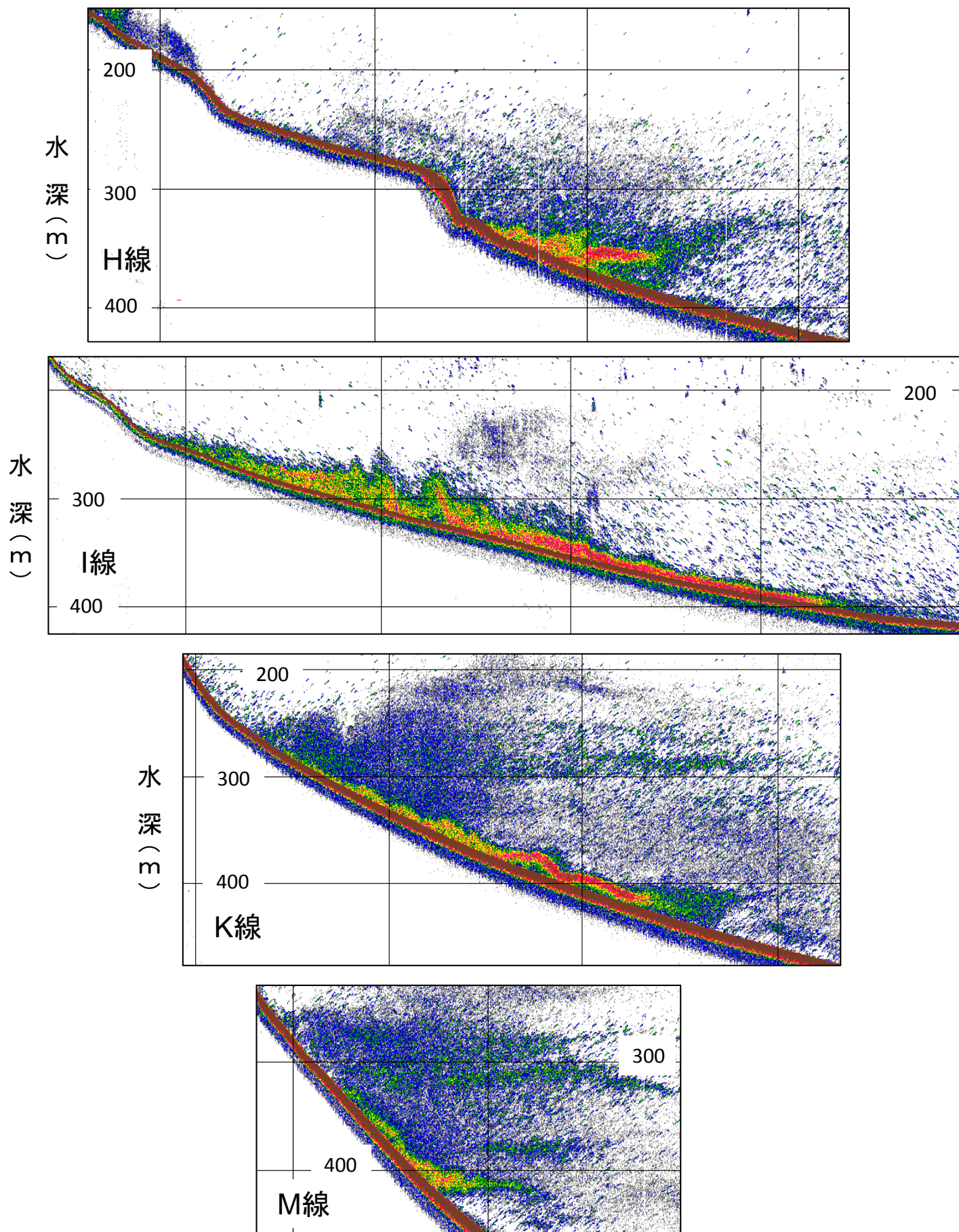


図2-2 魚群の分布状況(計量魚探画像)つづき  
 グラフの水平ラインの間隔は1マイル, 鉛直ラインの間隔は100m

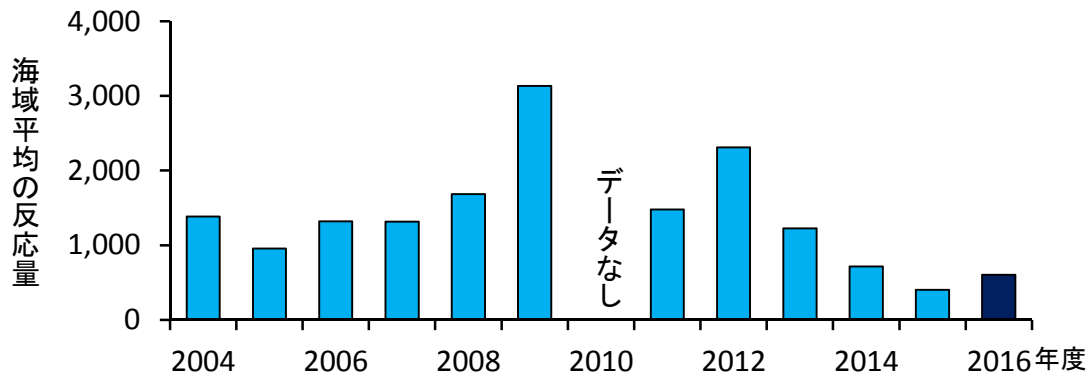


図3 調査海域における魚探反応量の推移

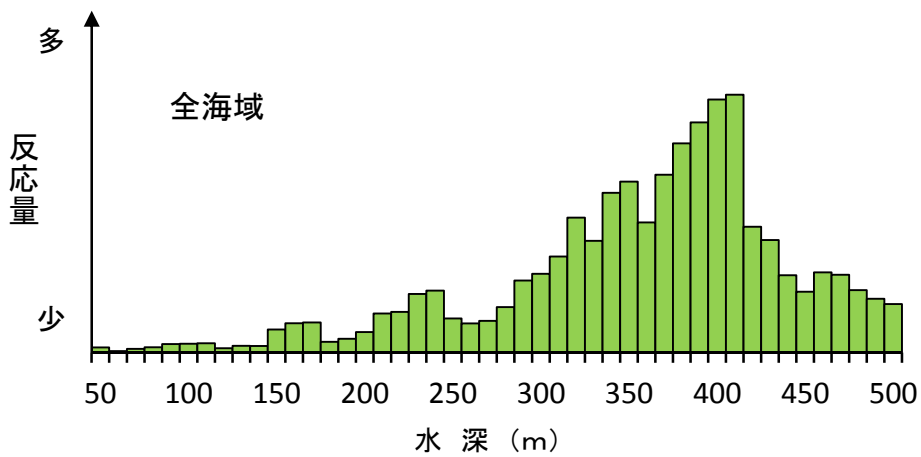
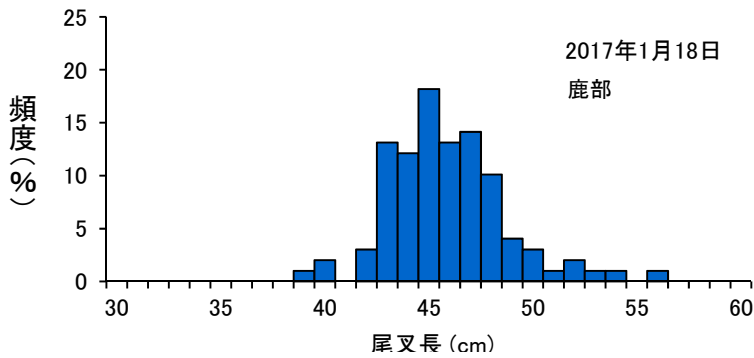
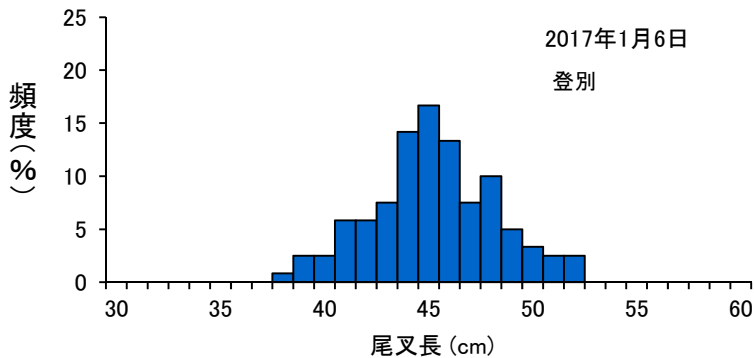
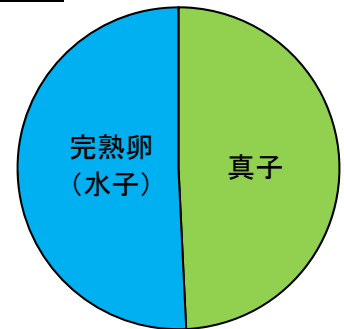


図4 水深別の魚探反応量



鹿部



登別

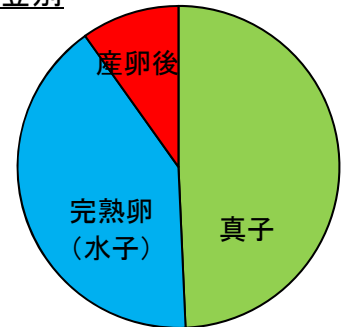


図5 刺し網漁獲物の体長組成(上:鹿部港漁獲物、下:登別港漁獲物)

図6 漁獲物の成熟状態(メス)  
上:鹿部港漁獲物  
下:登別港漁獲物